【概要】みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 ～ 高校教育の創造的再構築 ～

参考資料１

基本理念

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していく。

（１）高校教育の創造的再構築
○各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造する。

（２）生徒を主語にした高校教育の実現
○生徒が学びに対してより高い意欲を持ち、自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現する。

（３）質の高い高校教育の実現
○全ての生徒の可能性を最大限に引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

基本方針

（１）県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
（２）スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供する。
（３）少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
（４）デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
（５）地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
（６）多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

学校配置の考え方

（１）圏域の考え方
○圏域の見直し（７⇒５圏域（南部、中部、北部、東部、気仙沼））と学校間連携・オンラインによる教育空間の拡張

（２）普通科の特色強化と進学支援の充実
○普通科の改革の推進や進学系拠点校、進学系高校での進学に対応した教育支援の充実

（３）専門学科における学科横断的な学びの推進
○学科間の知識や技術を横断的に学べる学習機会の設定
○農業、工業や水産業に関わる基幹校における、先端技術を含む必要な教育の提供

（４）多様な学びに対応した高校配置
○生徒の多様な生活・学習スタイルに対応したｉｄｅａｌスクールや、多部制定時制高校、通信制高校の配置

（５）地理的条件等に応じた教育環境の整備
○生徒が安心して学ぶことができるよう、通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保の検討

学校規模の考え方

○１学年当たりの規模の目安は定めないものの、人口減少を見据えながら、圏域ごとに必要な学級数を設定し、学びの質の確保の観点から一定の学校規模を確保する。
○必要学級数の設定に当たっては、公私立における経済的負担の状況変化や各校の特色を踏まえた生徒の志望動向を考慮しながら検討する。

創造的再構築後のイメージ

○宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整える。

VRを活用した授業のイメージ

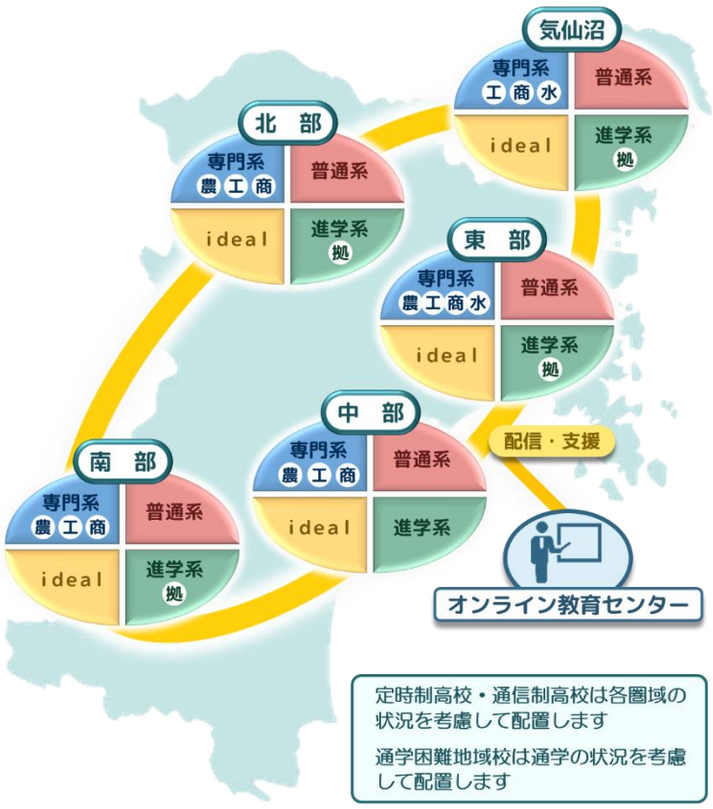


オンライン活用・海外交流のイメージ



栽培実習のイメージ





操船シミュレーター実習のイメージ



科学技術高校のイメージ



ｉｄｅａｌスクールのイメージ



県立高校教育の質の向上の方向性

志教育の一層の推進	確かな学力の育成	多様なニーズに対応した教育の推進	教育ＤＸの推進	地域と学校の連携・協働体制の推進
社会性や勤労観の涵養によるより良い生き方の主体的な探求	基礎的・基本的な知識・技能の習得と多面的な学力の育成	将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成と共生社会の実現に向けた教育活動の推進	AI等デジタル技術の活用とリアルの学びの融合	全国募集などを通じた魅力ある学校づくり

時代のニーズに対応した高校の魅力化

○オンライン教育の活用や協働学習体制の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要がある。

興味・関心や適性に合わせて学びたい
大学進学に向け切磋琢磨しながら学びたい
先端技術などの専門知識を学びたい
社会に出た時に役に立つ知識を学びたい

多様な学習ニーズに対応し、可能性を広げるための学習環境の整備が必要

大学や企業と連携した専門的な学び
地域の特性に応じた学科横断的な学び
実社会と結び付いた知識の習得
オンラインを活用した他校と連携した学習
ピアグループの形成による学習
地域資源の活用など特色あるカリキュラム

学校・家庭・地域の協働の必要性

○将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、学校・家庭・地域が役割分担をしながら連携・協働する。
○地域の実情や生徒の教育的ニーズに即した魅力ある高校教育の実現に向けて、市町村との連携・協働を一層推進する。

持続可能な学校教育の推進

（１）社会に開かれた教育課程の推進　（２）外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保
（３）教職員の支援体制　（４）生徒の相談・支援体制の構築　（５）教育環境の充実

入学者選抜の在り方

○入学者選抜について、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する。

将来構想の推進に向けた適正な進行管理

（１）社会情勢の変化に応じた進行管理
（２）適正な進行管理
○市町村や企業、こどもなどの多様な関係者の意見を伺いながら、実施計画の策定などを立案・推進する体制を構築し、各施策の進捗状況や課題を把握しながら進行管理を行う。

【概要】みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 ～ 高校教育の創造的再構築 ～

高校教育の創造的再構築に向けた柱となる取組について

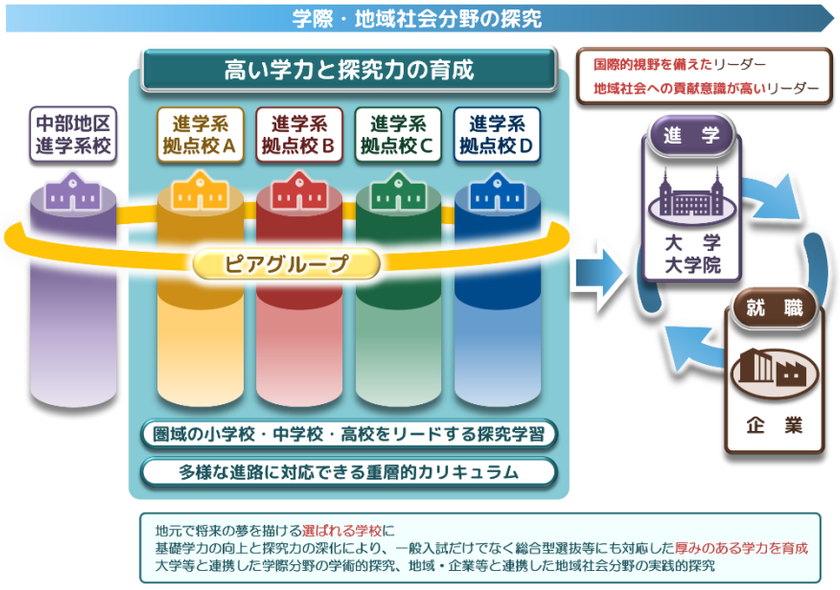
1 学力と探究を極め進学力も向上させる環境の整備

◆ 圏域ごとに**高い学力と探究力**を身に付けることを目指す**進学系拠点校等を配置**し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。

ピアグループのオンライン授業のイメージ



＜進学系拠点校のイメージ＞



◆ **普通科の改革の推進**により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、**地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。**

2 専門学科における実践的な学び

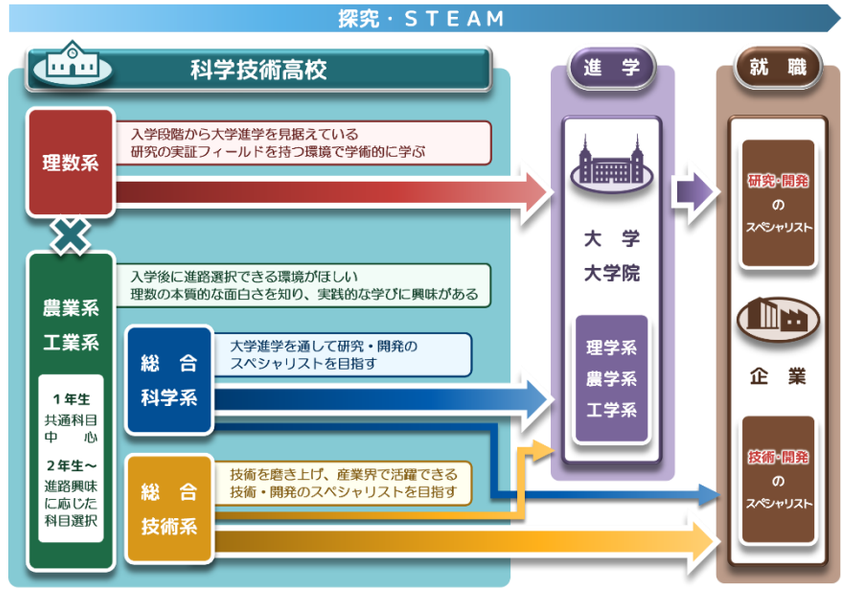
◆ 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を活用し、その成果を学校間で共有する。

◆ 農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、**先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討する。**

◆ 水産については、**6次産業化や海洋資源の活用など、地域の特色を活かした学び**の機会を提供する。

◆ 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供する。

＜科学技術高校のイメージ＞



3 多様な学びのニーズへの対応

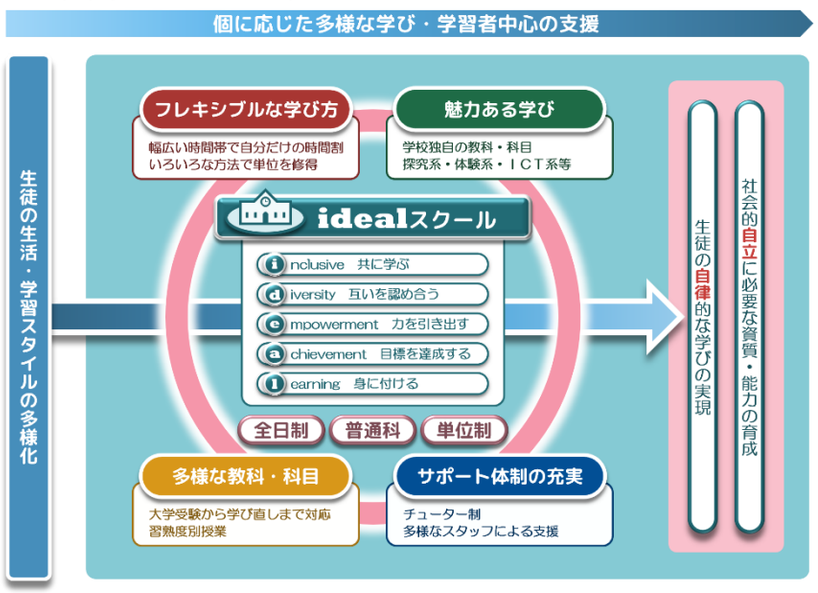
◆ 生徒の多様な生活・学習スタイルに応じて**フレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のｉｄｅａｌスクール**の柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討する。

◆ 定時制高校の現状を踏まえながら、ｉｄｅａｌスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討する。

◆ 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、安心して学びを継続できる環境を整備する。

◆ 配慮や支援の有無に関わらず、互いを尊重し協働できる環境の整備として、高校と特別支援学校の併置や連携等による、生徒の交流及び共同学習を通じて、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の推進を図る。

＜ｉｄｅａｌスクールのイメージ＞



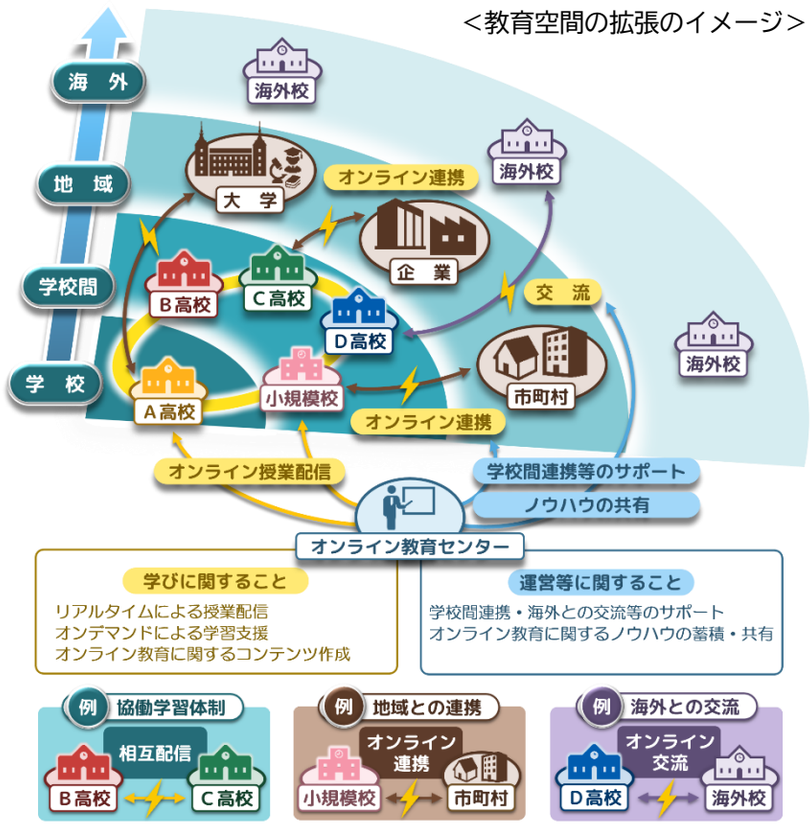
4 オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張

◆ 小規模校においては、人間関係の固定化が生じやすいことや、多様な価値観に触れる機会が少ないこと、また、教職員数など教育資源に限りがあるため、オンラインや地域連携などを活用し、教育環境を整える必要がある。

◆ オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の進学系拠点校や中部地区の進学系高校と連携した授業の相互配信等による充実した学習環境を整備する。

◆ **オンライン教育センターの設置**により、**学びの質を確保**するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備する。

＜教育空間の拡張のイメージ＞



【概要】みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 ～ 高校教育の創造的再構築 ～

策定の趣旨

○急速な少子化の進行
○高校教育に対するニーズの変化
・生徒一人一人のウェルビーイングの実現
・地域に貢献できる人材育成

構想の期間

○構想策定時点で１４年先までの中学校卒業者数について見通しが立つことから、令和８年度から令和２１年度までの１４年間を対象期間として設定する。
○本構想を踏まえて、次の期間で別に実施計画を策定する。
１次 令和９年度～令和１３年度／２次 令和１４年度～令和１７年度／３次 令和１８年度～令和２１年度

高校教育を取り巻く現状と課題

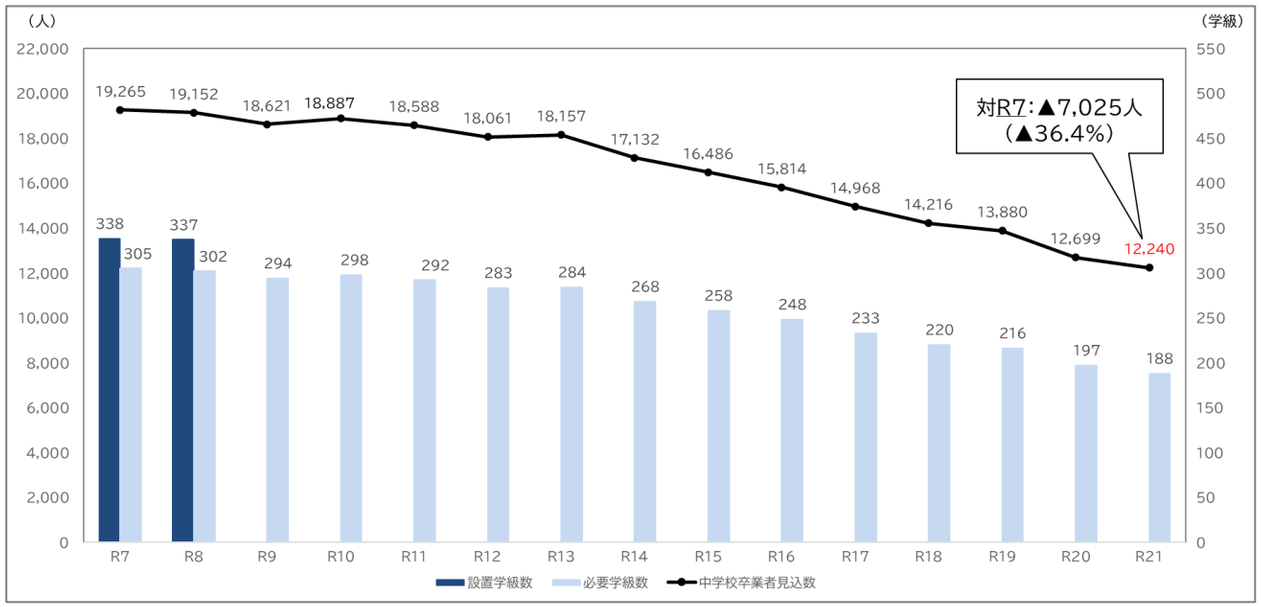
（１）社会経済環境の変化
○少子化ペースの加速化
○デジタル化、グローバル化等、必要となる知識・能力の変化
○成年年齢の引き下げ

（２）県立高校の現状と課題
○生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化による高校教育の役割の複雑化・高度化
○学校に登校していない生徒・中途退学者の増加
○地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保

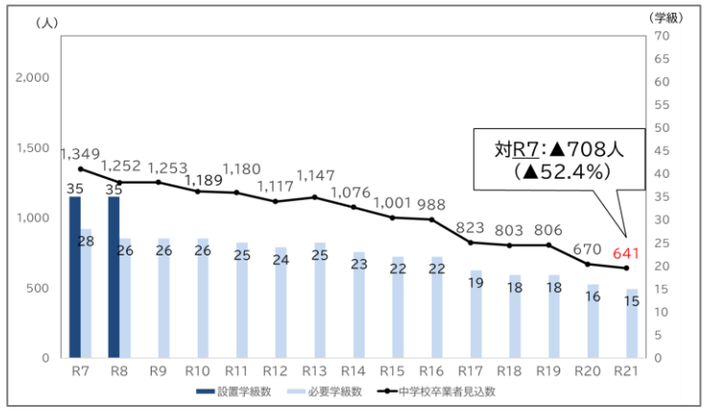
全県・圏域ごとの今後の必要学級数の推移及び再構築後の姿

＜全県＞
【現状】令和７年度
中学校卒業者見込数　19, 265人
設置学級数　全日制338学級

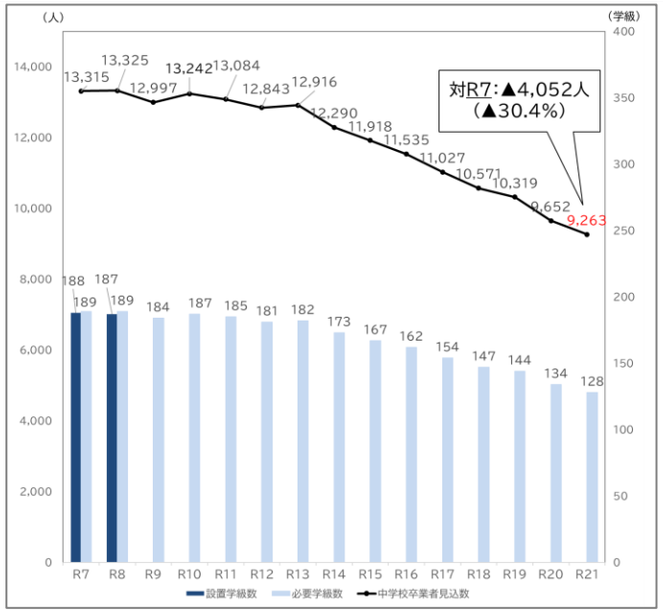
【令和21年度の姿】
中学校卒業者見込数　12, 240人
必要学級数　188学級



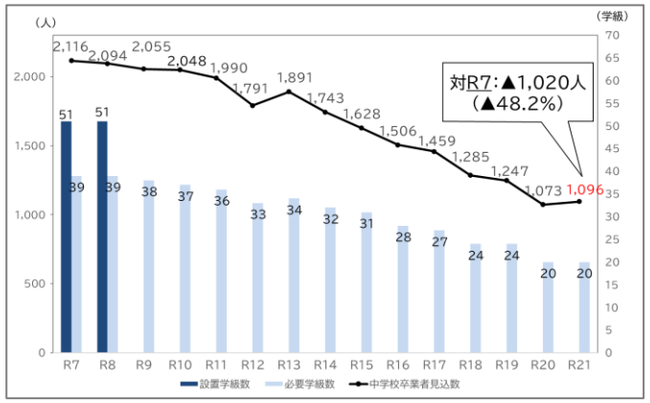
①南部地区
【現状】令和７年度
中学校卒業者見込数　１，３４９人
設置学級数　全日制３５学級
【令和２１年度の姿】
中学校卒業者見込数　６４１人
必要学級数　全日制１５学級
○大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びの確保。



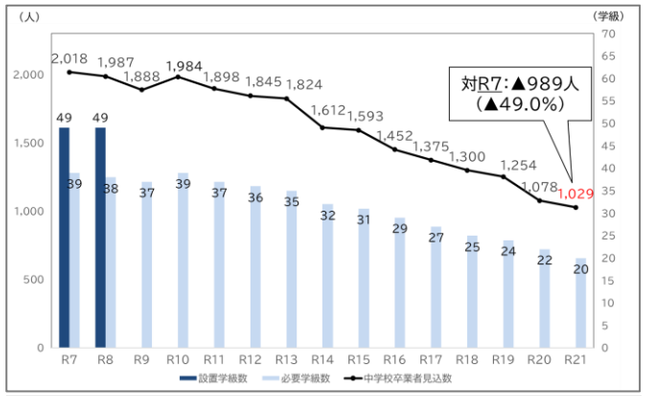
②中部地区
【現状】令和７年度
中学校卒業者見込数　１３，３１５人
設置学級数　全日制１８８学級
【令和２１年度の姿】
中学校卒業者見込数　９，２６３人
必要学級数　全日制１２８学級
○大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学びの確保。
○大学や企業との連携による先端技術を学べる農業系、工業系の専門学科の基幹校の配置。



③北部地区（大崎地区＋栗原地区）
【現状】令和７年度
・大崎地区　中学校卒業者見込数　１，６６９人
　設置学級数　全日制４０学級
・栗原地区　中学校卒業者見込数　４４７人
　設置学級数　全日制１１学級
【令和２１年度の姿】
中学校卒業者見込数　１，０９６人
必要学級数　全日制２０学級
○大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びの確保。



④東部地区（登米地区＋石巻地区）
【現状】令和７年度
・登米地区　中学校卒業者見込数　６１５人
　設置学級数　全日制１４学級
・石巻地区　中学校卒業者見込数　１，４０３人
　設置学級数　全日制３５学級
【令和２１年度の姿】
中学校卒業者見込数　１，０２９人
必要学級数　全日制２０学級
○大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系、商業系や水産系の学びの確保。



⑤気仙沼地区
【現状】令和７年度
中学校卒業者見込数　４６７人
設置学級数　全日制１５学級
【令和２１年度の姿】
中学校卒業者見込数　２１１人
必要学級数　全日制５学級
○大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、工業系、商業系や水産系の学びの確保。

